

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 5月27日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23652164

研究課題名（和文） 威信言語から共通言語へ——アジア史における言語接触と地域アイデンティティー

研究課題名（英文） From prestige language to common language: Linguistic contact and regional identities in the Asian history

研究代表者

緒形康（OGATA YASUSHI）

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号：40194427

研究成果の概要（和文）：「威信言語」と「共通言語」の概念にもとづき、地域の文化的アイデンティティーを有した多文化共同体としての16～19世紀アジア史を再構成した。漢語・アラビア語などの威信言語が共通言語へと内部再編された文化圏と、マレー語・ペルシャ語などの威信言語が植民地化の危機の中で消滅し、インドネシア語、インド土着言語、英語などの新たな共通言語が誕生した文化圏の2つについての初歩的な考察を行った。

研究成果の概要（英文）：On the basis of the concept of "prestige language" and "common language", we attempt to reconstruct the interpretation of the 16~19th century Asian history from an angle of multi-cultural communities which represented the cultural identities of these areas. And in this study, we demonstrated two cultural areas. One is the "prestige language" such as Chinese and Arabic language areas which had been reconstructed to "common language", and the other, such as Malay and Persian language areas—the conventional "prestige language" which were in crisis of colonization, had been replaced by the new common languages—Indonesian, Indian indigenous languages, and English.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：威信言語、共通言語、アジア史、地域アイデンティティー、マレー語

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の学術背景は2つある。1つは、漢

語を多言語接触の観点から動的に捉え、近代中国の地域アイデンティティーの再編を

考察する研究である。それは、牧野巽の地域方言研究に始まり、高田時雄の敦煌文書研究、湯開建・張国剛による16～17世紀宣教師の漢語認識の研究を経て、葉文心や Lydia Liu の、構造主義的言語分析に基づく中国社会史研究、関西大学アジア文化交流研究センター・グループによる欧米・中国・琉球・朝鮮間の言語接触研究へと発展している。Lydia Liu や内田慶市は、馬建忠『馬氏文通』や嚴復『英文漢詁』を素材に、19世紀を通じて、漢語を世界的な「威信言語」（普遍言語）として保持しようという文化的野心にもかかわらず、国民国家の共通言語へと次第に転じてゆく過程に注目した。

(2)2つは、16～18世紀の南アジアにおいて、当該地域の土着言語ではないペルシア語が広く流通した史実に注目した近藤信彰による「ペルシア語文化圏」研究（2000年）である。これを受け、近代以前のイスラーム世界各地におけるペルシア語文化の展開に関する研究会の論文集が、2009年に森本一夫によって編まれた。注目すべきなのは、この「威信言語」が19世紀前半にイギリスのインド植民地経営の中で漸次消滅することである。

## 2. 研究の目的

(1)威信言語・共通言語のテキストにつき、そのおよその変容過程や地域的差異を明らかにすることを研究の目的とする。世界の文書館に散在したそれらテキストを収集・分類することに力点が置かれる。さらに、こうして収集・分類したテキストから得られた初歩的知見につき、世界のアジア史の研究者と共に討議を行う。その過程で、この問題に関する学術ネットワークを形成し、本研究の更なる展開の礎とする。

(2)アジアの多様な言語テキストについて、言語学史・文法学・修辞学・文学論等、歴史学とは異なる領域の成果を参照するという学際性が本研究の特色である。その結果、アジア史の中に、国家や民族ではなく地域の文化アイデンティティーに基づく多様性を見出すことができよう。それは、言語接触を手掛かりに、現代の多文化共生社会の在り方に一石を投ずるという意義を有する。

## 3. 研究の方法

(1)テキスト情報を整理したアーカイブ資料の作成。作成に当っては、手写本・刊本・異同本・翻訳書といったテキストの流布・変遷過程の解明に重点を置く。

(2)欧米植民者の出先研究機関、及び現地知識人・文学者・言語学者の研究機関（アカデミア・学校・文書館）に注目し、その研究成果の収集に努める。

(3)以上の2つの論点をテーマに、課題となる問題群を整理し、国際ワークショップの開催準備を進める。

## 4. 研究成果

(1)研究初年度である2011年度は、アジア史の威信言語が学術的記述や政策的操作の対象になり、かつ当該時代の地域文化アイデンティティーの形成と深く関わっているとの見通しに基づいて、欧米諸国の出先研究機関、教育機関、キリスト教ミッション団体など、および現地知識人・文学者・言語学者の研究機関や言語協会（アカデミア）、教育機関、文書館などの実態の解明に資する基礎資料の収集に努めた。その成果として、『アジア威信言語関係研究文献目録（初稿）』（2012

年)を公刊した。

(2)研究最後の2012年度は、16~19世紀のアジア史における地域アイデンティティは、漢語・アラビア語が威信言語の性格を温存したまま、書記体系を離れた記号学的な共通言語へと内部再編された文化圏と、マレー語・ペルシア語などの威信言語が植民地化の危機の中で消滅し、インドネシア語、インド土着言語、英語等の新たな共通言語が誕生した文化圏の2つに類型化されるという理論仮説を基に、その検証作業を進めた。

(3)その作業の成果として、17世紀以来の漢語・マンジュ語に関する研究論文を発表すると共に、16世紀のムガル帝国におけるペルシア語文献に関する注釈の刊行を始めた。また、本研究のメンバー4名によるマレー語研究に着手した。

(4)さらに、チベット語など同時期の他の言語に関する研究者との意見交換を通じて、当該研究の理論仮説を相対化する努力を行うなど、研究期間内において、16~19世紀の威信言語と共通言語に関する実証研究の端緒を築くことができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

- ① 緒形康 (訳)、近代世界史における多民族国家——中国の実験」(プラセンジット・デュアラ著)、グローバルヒストリーの中の辛亥革命——辛亥革命100周年記念国際シンポジウム(神戸会議)論文集、日本孫文研究会編汲古書院、査読無、2013、8-19

- ② 緒形康 (司会)、総合討議、グローバルヒストリーの中の辛亥革命——辛亥革命100周年記念国際シンポジウム(神戸会議)論文集、日本孫文研究会編、汲古書院、査読無、2013、339-352
- ③ 緒形康、近世ユーラシア帝国と一八世紀後半日本の知識人、アジア・ディアスポラと植民地近代——歴史・文学・思想を架橋する、緒形康 (編)、勉誠出版、査読有、2013、55-80
- ④ 緒形康、一九三〇年代の封建遺制論争、資本主義論争におけるアジアの影、アジア・ディアスポラと植民地近代——歴史・文学・思想を架橋する、緒形康 (編)、勉誠出版、査読有、2013、193-219
- ⑤ 緒形康、大清帝国の言語政策、紀要(神戸大学文学部)39号、査読無、2013、45-68
- ⑥ 真下裕之 (監修)、アブル・ファズル著『アーイーニー・アクバリー』訳注(1)、紀要(神戸大学文学部)39号、査読無、2013、69-118
- ⑦ 緒形康、中国革命のイデオロギー装置——資産階級法権と継続革命論、中国——社会と文化、第27号、査読有、2012、264 - 287.
- ⑧ 真下裕之、ムガル帝国におけるバフシ職について——大バフシ職の運用における人的要因、東洋史研究71-3、査読有、2012、85-130
- ⑨ 谷口淳一・清水和裕・近藤真美・伊藤隆郎他訳注、イブン・ファドルアッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』3、史窓69、査読無、2012、19-53
- ⑩ 村井恭子、九世紀中葉唐北邊的情况、第六屆中国中古史青年学者聯誼会論文集(予稿集)、2012、211-223
- ⑪ 緒形康、現代中国のイデオロギー状況と

『北京コンセンサス』——誰が文化を主導するのか、国際問題、査読有、No.602、2011、5-14

- ⑫ 真下裕之、インド・イスラーム社会の歴史書における「インド史」について、紀要(神戸大学文学部) 38号、査読無、2011、51-107
- ⑬ 伊藤隆郎、マムルーク朝スルターン=カーイトバーイのダシーシャ・ワクフ、アジア・アフリカ言語文化研究 82、査読有、2011、31-60
- ⑭ 谷口淳一・清水和裕・近藤真美・伊藤隆郎他訳注、イブン・ファドルアッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』2、史窓 68、査読無、2011、51-94

[学会発表] (計1件)

- ① 村井恭子、九世紀中葉唐北邊的情況(中国語、招待講演)、第六届中国中古史青年学者聯誼会、2012年8月26日、復旦大学

[図書] (計3件)

- ① 緒形康 (編)、アジア・ディアスポラと植民地近代——歴史・文学・思想を架橋する、勉誠出版、2013、323
- ② 日本孫文研究会編 (江田憲治、緒形康、武上真理子、陳来幸、水羽信男)、グローバルヒストリーの中の辛亥革命——辛亥革命100周年記念国際シンポジウム(神戸会議) 論文集、汲古書院、2013、389
- ③ 伊藤隆郎・緒形康・真下裕之、村井恭子 (編)、アジア威信言語関係研究文献目録(初稿)、科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究) 成果報告書、2012、92

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

緒形 康 (OGATA YASUSHI)

神戸大学・大学院人文学研究科・教授  
研究者番号：40194427

### (2) 研究分担者

真下 裕之 (MASHITA HIROYUKI)  
神戸大学・大学院人文学研究科・教授  
研究者番号：70303899

伊藤 隆郎 (ITOH TAKAO)  
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授  
研究者番号：60464260

村井 恭子 (MURAI KYOKO)  
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授  
研究者番号：50569291

### (3) 連携研究者

磯貝 真澄 (ISOGAI MASUMI)  
神戸大学・大学院人文学研究科・学術推進研究員

研究者番号：90582502

田中 剛 (TANAKA TSUYOSHI)  
神戸大学・大学院人文学研究科・学術推進研究員

研究者番号：10542136